

<p>タイトル</p>	<p>2024 年度学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教育専攻 小論文問題</p>
<p>評価の ポイント</p>	<p>【評価のポイント】</p> <p>マックス・ウェーバーの『職業としての学問』のなかから、「思いつき」に関する部分を取り上げて出題した。このなかでは、「思いつき」は、「なにか有意義な結果を出すためには」必要とされるものであるが、「無理に得ようとしてもだめ」で、「人が精出して仕事をしているときにかぎってあらわれる」と述べられている。それは、「数カ月にもわたって何万ものくだらない計算問題に頭を使う」といった作業の積み重ねのうえにあらわれるとされる。</p> <p>この論考をもとに、以下の点を重視し、総合的な思考力、表現力の面から評価を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思いつき」を得るために筆者が必要だと考えていることを適切に理解しているか。 ・文章の理解にもとづき、自分なりに何かを学びとることができたか。 ・さらに、自分が学び取ったことを、中学生でも理解できるようにわかりやすく伝えることができているか。特に、中学生が抱える課題とも関連づけ、中学生が「自分事」として理解できるように説明になっているかについて、内容の独創性や論理的な説得性などの観点で評価を行った。 ・原稿用紙の使い方、誤字脱字、文のねじれなど表現の形式面で問題がないか。 <p>出典：マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』岩波書店、1936年（1980年改訳）、23～24ページ</p> <p>【解答例】</p> <p>問1</p> <p>思いつきは、なにか有意義な結果を出すために必要だと説明されている。この思いつきは、無理に得ようとしてもだめで、人が精出して仕事をしているときにかぎってあらわれるとされる。さらに、数カ月にもわたって何万ものくだらない計算問題に頭を使うといった作業のうえにあらわれるとしている。このように、筆者は、思いつきを得るためには、短期的な結果にまどわされず、精を出して物事に取り組むことが必要だと考えている。（198字）</p> <p>問2</p> <p>私はこの文章を読んで、「短期的な結果に一喜一憂せず、取り組みを重ねていくことで大きな結果につながりうる」ということを学</p>

んだ。このことを中学生に伝えるために、自分の経験を披露したい。改めて自分を振り返ってみると、私は、「何かで結果を残した」という感覚をあまり持っていないことに気がついた。高校受験での合格や、部活動での上位の成績など、達成感を得る経験はいくつかあった。しかし、後で振り返ると、それはあまり大したことのように思えない。その理由を考えてみると、「取り組みを重ねる自分」を、適切に評価できていなかったのではないかと思いついた。

今も大学進学を目指して、毎日受験勉強に取り組んでいる。思うように成績が伸びず、焦りを感じてしまうことも多い。そういうなかで、この文章から「今行っている勉強は、何らかの結果につながる」と信じられるようになったことは、受験勉強に取り組むうえで、私の心のある程度軽くしてくれた。だが、それとともに、「今勉強を頑張っている自分」や「自分の頑張り」を正しく受け止めていくことも大切だと感じる。どうしても「勉強が足りないのではないか」「まだやれることがあるのではないかと、自分を追い詰めてしまいがちになる。もちろん、向上心を持つことは大切である。しかし、「自分が頑張っている」ことをしっかり受け止めることもまた重要であることを、中学生にも伝えたい。(590字)

<p>タイトル</p>	<p>2024 年度 学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教育専攻 面接問題</p>
<p>評価の ポイント</p>	<p>(面接)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 志望動機，大学や専攻についての知識，その他の教育関係の質問に対し，的確に自身の意見が述べられているか。・ 自身の回答に対する面接者からの追加質問に的確に応答できているか。